石川県の企業の課題解決の機会を活用した研究調査方法の実践

団体名●中尾ゼミナール／代表者名●中尾 公一（経済学部 経営学科・准教授）

はじめに（背景・目的・目標）

この活動は、企業課題の解決に関心をもつ、本学経済学部の3年生の専門ゼミナールのゼミ生有志に対し、卒業研究論文の執筆に必要な情報収集分析の機会を実地に提供したいと考え実施したものである。

本学の「地元定着推進支援事業」の枠組で、石川県中小企業家同友会地域政策委員会の奥田染色株式会社（代表：奥田 久子氏、金沢市）と、農事組合法人 北辰農産（代表理事：舘 喜洋氏、白山市）、そして北辰農産の舘代表に紹介して頂いた、株式会社明月堂（代表：竹田 隼人氏、小松市）の協力を得て、主に夏期休業期間中のフィールドワークで課題提示を受け、グループ毎に担当企業の課題に取り組んだ。

活動内容

（株）奥田染色では本社工場や茜やアーカイブギャラリーの視察と染物体験をさせて頂いた上で、同社の商品や染物体験プログラムの認知度向上と、体験プログラムの顧客満足度と時間制限のバランスの課題が提示された。

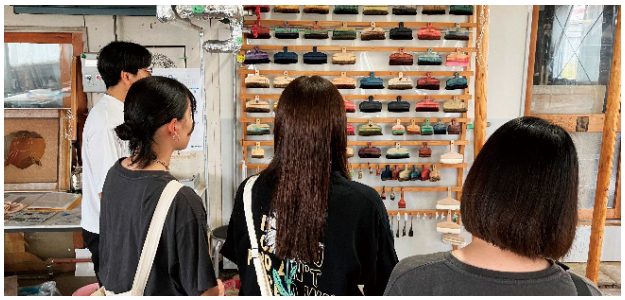

写真1：奥田染色株式会社でのフィールドワーク

（株）明月堂からは、農事生産組合北辰農産とともに北陸新幹線開業に伴う、同社のバームクーヘンの盛付けの提案や、玄米粉バームクーヘンの顧客満足度調査を求められた。また課題提示を受け、夏期休業期間中にゼミ合宿で京都を訪問した際、体験工房での染物体験し、バームクーヘンの製造会社を複数訪問し、製品や盛付を確認した。

（農）北辰農産からは、顧客の声を反映させる形での経営理念の見直しと学生の視点からの理想的な事業や働く環境について意見が求められた。舘代表と調査方法や調査内容につき打合せを行った上で、同組合が2023年10月21日に開催した『稲ほ舎 第2回収穫祭 新米食堂（以下「新米食堂」）』に参加し、来場客に聞取調査を行った。顧客の意見を聞くために質問紙を作成し、「新米食堂」来場者に玄米粉バームクーヘンの試食を促しつつ、調査を行った。

写真2：農事生産組合北辰農産での途中経過報告

ゼミ生達は、必要に応じて書籍やデータを追加した上で調査結果を整理しつつ、発表案を作成し、事業者やゼミでの議論を経て発表内容や資料を改善した。

成果、結果の考察

（株）明月堂や（農）北辰農産との関係では「新米食堂」に参加した学生の写真とともに活動内容が、2023年11月17日付の地元紙で紹介された。また2024年1月18日に企業向け発表会を行い、（株）奥田染色からは発表内容の改善が見られ、提案内容は実際に取組んでみたいとの意見を得た。また（農）北辰農産からは発表内容を評価され、同年2月14日に同社従業員向けに発表機会を頂いた。

上述の成果を得られたのは、貴重な時間と労力を割いて頂いた3つの事業者や、京都訪問やフィールドワークだけでなく、発表資料の改善に向けて試行錯誤を重ねたゼミ生達の努力によるものである。

今後の課題、展望

今次プログラムに参加したゼミ生達は卒業研究論文執筆に取り組む。この経験を踏まえ指導に生かしてまいりたい。

※本原稿の内容は筆者の責に帰すべきものである。